

第 66 回

全国高等学校PTA連合会大会
千葉大会

基調講演・ 記念公演



「再発見！愛」
〜今こそ信じよう愛の絆〜

基調講演



講演者

千葉敬愛短期大学
学 長

あかし よういち
明石 要一 氏

高校生の自立を支援するPTA活動の在り方

～今こそ信じよう高校生を～

ただ今、紹介いただきました、千葉敬愛短期大学学長の明石でございます。昭和23年のねずみ生まれでございます。誕生日がいい日で、1月の17日なんです。あの山口百恵さんと同じ誕生日です。笑ってくれた方は、50歳以上の方ですよ。21年前の阪神・淡路大震災も同じ日に大震災がございました。アメリカ大統領のオバマさんの奥さんも同じ誕生日です。そういう星の下の明石と、60分ほどのお付き合いをお願いいたします。

最初に、じゃんけんゲームをお願いします。ちょっとお願いします。じゃんけんゲーム。できましたら、隣前後の女性のゲームのかたちを見てほしいんです。親指が外側のゲームの女性と、親指が中に入った女性の方と、親指が真ん中の人があります。わかりますかね、こういう三通りのゲームのかたちがあるんです。男性の方は、外側のゲームが多いはず。ほぼ98%の男性は、外側のゲームなんです。ですけども、女性の方は、三通りに分かれます。

ただし、今日おみえの女性の方は、外側のゲームが多いはず。この、女性の方のゲームのかたちで、性格がわかるんですよ。もう変更はしては駄目ですよ。多分、今日、おみえの方は、外側が多いんです。この女性の方は、今ではありません。昔、小学校2年、3年生ごろは、負けず嫌いのお嬢さんだった。例えば、明日運動会よといった夜、一生懸命腹筋して頑張るお嬢さんね。みんなが来

てくれると頑張れるお嬢さんが外側なんです。

で、中学校、高校時代、進路でお父さんとぶつかっています。お父さんが「女の幸せは結婚よ」、「違う。お父さん、私、仕事したい」と口答えをしました。非常に前向きで、キャリア志向の女性が外側なんです。それで、結婚は、恋愛結婚が多いんですよ。だけど、最近、ちょっぴり反省している。あの旦那、まずかったかな。いや、だけど、結婚とはこんなもんよ。切り替えが早い。非常に明るくて、前向きで、頑張る女性が外側なんです。その対極の方が内側の方。少ないんです。全体で大体10%ぐらい。この方は、良妻賢母。上品で気品があるんですよ。もう変更しないでくださいよ。

ただし、内側の女性の方は、友達が少ない。読書が好き、編み物が好き、レコードを聴くのが好き。自分の世界をつくるのが上手なんです。ですから、若いときは、お父さんとぶつかっていません。親の言う通りの人生を歩んできました。結婚も、大体見合い結婚が多いんです。それで、結婚した旦那が飲んべえの場合は、水差しを置いています。おしほりを置いています。良妻賢母でしょうから、水差しとおしほりを置いている。ふすまを開ける場合は、膝を折って開けます。逆に、外側のゲームのお母さんは、ふすまを開ける場合は、足で開けます。これは、みんなタイプが違うんで

すから。

それで、真ん中の人、この方は、大体2割から3割ぐらい。知的能力が高い。非常に頭が柔らかいんです。柔軟性がある、アンテナは高い。いろんな情報をキャッチするのが得意なんです。これは、全然根拠はないですよ。根拠はないんだけど、何回もやってみると、同じ結果になる。こういうのを経験則と申します。家庭教育とか、PTA活動というのは、経験則だと思います。因果関係ははっきりわからないけども、何回もやってみると、同じ結果になる。

そこで、このじゃんけんゲーが使えるのが、PTA役員を決めるときなんです。本部役員の会長と副会長は、前の会長と教頭先生が、1年かけて説得します。一番難しいのは、中学校と高等学校の学級役員を3名決めるときなんです。

例えば、中学校で申しますと、入学式が終わります。生徒を部屋に帰したら、体育館のドアを閉める。それはお父さん、お母さんが逃げないようにするためです。それで、ここが1組ですよ、2組ですよとかいって座ってもらって、担任が、「お父さん、お母さん、学級役員を3人決めてください」と言うと、みんな下を向くんです。下を向くんだけど、じゃんけんゲーの外側のお母さんは、もういらいらして、ちょっとあんな、しゃべりなさい、とかね、同じ小学校から上がったお母さんと、ブロックサインで意思をはかります。

いや、いやと言いますけども、外側のお母さんは、役員をやってくれます。なぜかといいますと、幼稚園、保育園、小学校で、ものすごく役員をやっているんですよ。もう早く決めたいのね。だから、これからは、高等学校の学級役員を決めるときは、じゃんけんゲーをしてください。外側のお母さんが、お父さんを含めてですよ、クラスのPTAの学級代表。内側のお母さんは、上品で、人前では話すのは嫌だけど、PTA会報を作るのが上手ね。デスクワークがうまいんです。

で、真ん中のお母さんは、お父さんを含めて、アンテナが高いから、情報を集めるのが上手なんです。お願いしたいのは、1人が三役やると大変

けども、3人が力を合わせて頑張るとPTA活動は楽しいですよ。ぜひ、これからは、じゃんけんゲーがキーワードね。

赤ちゃんは、親指を中に入れて生まれてくるそうです。にぎにぎしながら、これで終わる女性と、外に出る女性と、真ん中で分かれる。

では、もう一つ、こんにちはお辞儀いたします。右手が前でしょうか。左手が前でしょうか。ちょっとお願いします。お辞儀される場合の仕方。これは、右手が前は、いけないんですよ。多くの方は、右手が利き手です。前にあると、相手に敵意を持っているんです。そうすると、左手が前でお辞儀をするんですね。これが礼儀作法と言われます。日本人は、そういう作法を大事にします。

もう一つ、この壇上を、上手から上がる場合に、ちょっとよろしいでしょうか。右足から上がる先生と、左足から上がる先生がいますよね。どちらの先生が皆さんを大事にしているか。ちょっとお隣で相談してくれますか？右で上がる先生と左から上がる先生。

もうおわかりですよ。右足から上がる先生がいいんですよ。左足の場合は、お尻を皆さまに向けているんです。だから、これから、校長先生が入学式で上がってくる場合、よく見てくださいよ。本当に生徒を大事にしている校長さんか、口だけの先生か、わかるんですよ。

例えば、もう一つ、黒板を消す先生がいらっしゃる。二通りいらっしゃる。縦に黒板を消す先生と、横に消す先生がいらっしゃる。どちらの先生が、生徒を大事にしているのでしょうか。ちょっとこれも相談してくれますか。縦と横。

これは、縦がいいですよ。一般的に申しますと、小学校の先生は、縦に消す人が多いんです。大学は、大体横に消していますよ。だから、縦に消す先生が子どもを大事にしているんですよ。全部チョークを下に下ろす先生、そうすると、後ろの方が見えやすいんです。横に消す人は、真ん中にチョークがたまるから、後ろの方は、見えにくいという。

今日お願いしたいのは、こういうのを、観察と言います。ウォッチングをしながら子どもを理解してほしい、人間を理解してほしいということで、観察が大事なんです。

そういう頭の体操が終わりまして、よく時代が変わったと言います。今日お願いしたいのは、時代が変わったことを、一言で説明する練習をしてほしいんです。私は、こう言います。戦後71年間、時代は変わりました。親戚が減りました。なるほど、親戚が減ってきました。親戚の代表は、「いとこ」ですよ。いとこが何人いらっしゃるか。父方と母方で、ちょっと頭に描いていただけますか。いとこが何人いらっしゃるか。

私は、森田県知事と同じように、団塊の世代。この団塊の世代は、一般的に申しますと、30人のいとこがいるんですよ。私のおふくろは、9人きょうだい。おやじが6人きょうだいですから、もう、すぐ30人に達します。36歳、7歳、8歳の団塊ジュニアの世代は、いとこが10人程度なんです。

それで、孫がいますけれども、孫の世代は、残念ながら、いとこはゼロなんです。この戦後71年間、いとこが減ってきたんですよ。言うならば、親族が減ってきた。だから、非常に今の子どもたちの成長するスタイルが変わってきたんです。ちょっと専門的ですけども、教育というのは、縦の関係と横の関係が多いですよ。家庭教育は、親子関係。学校も、先生と生徒の関係は縦、クラスメートは横関係。ナナメの関係が、今はないんです。今日おみえの50歳以上の方は、縦と横があって、斜めがあったと思うんですよ。今、一番子どもが育ちにくいのは、斜めの関係がすぼっと消えてしまったんです。

結論を申し上げますと、PTAの活動は、この斜めの関係をつくってくれれば、高校生の自立がしやすい、と思います。これまでは親には相談できないけれど親戚のおじさん、おばさんには相談できるとか、ちょっと年の離れたいとこの方には相談できるという、そういういい意味での身内があったんです。

例えば、高校ではありませんけれども小学校では地区児童会がありました。今、地区児童会がなくなりました。例えば、千葉市は、小学校が112校ありますけれども、地区児童会があるのが、たった1校です。この地区児童会というのは、集団登校、集団下校をする付き合いです。今は地域の方が、セーフティーガードでサポートしています。かつては、6年生が地域の1年生、2年生の面倒を見てあげたんですよ。

じゃあ、もう一つ。皆さん方の小学校、中学校の運動会で、地区対抗リレーは、残っているか、残っていないか。ちょっと相談してください。小学校、中学校の運動会の種目で、地区対抗リレー。かつては、地区対抗リレーがあったから、ものすごく地域が競争して燃えたんですよ。

地域が消えたというのは、子ども会とか、ボーイスカウトとか、ガールスカウト、親戚とかいう、学校と家庭では違った組織が少なくなってきた、ことなのです。今は、それがすぼっと消えてしまったから、独りぼっちの中学生、高校生たちが出現していますよね。そういう意味で、時代が変わってきたんですよということを、まず一つ、頭に入れてください。

二つ目は、子どもが変わってきました。私は、千葉敬愛短大に来て3年目です。幼稚園、保育園を訪問します。園長先生にお聞きしたら、この10年間、園児の「ごっこ遊び」が変わってきた、というのです。10年前までは、ごっこ遊びでは物を作る遊びが多かったんです。まな板の上にニンジン置いて、とんとんと切るとか、こちらのほうには、フライパンでハンバーグを作るとかという、そういうままごと遊びがあった。それが10年後の今は、物を作るごっこ遊びが消えて、「配膳遊び」が増えているそうです。テーブルをきれいに拭きまして、お皿を置いて、袋から買ってきたものをてんこ盛りして、「いただきます」といって食べるまねをするのです。

配膳遊びが主流です。何で今の幼稚園児は、配膳遊びが主流なんのでしょうか。ちょっと相談してください。

もうおわかりですね。働くお母さんが増えてまいりましたから、夕飯は、スーパーで買ったものを、「さあ、いらっしゃい。夕飯ですよ」、きれいにテーブルを拭いてくれて、お皿にきれいに盛り付けをして、「いただきます」という食卓が増えているのです。これはこれでいいんですけども、ちょっと視点を変えてほしいんです。朝ご飯を考えてください。大体幼児が起きる前に親が用意しているんです。保育所や学校給食の給食当番は配膳当番ですよ。作る場面は見えていないんです。そうすると、夕飯までも配膳当番が増えると、3食とも、作る場面を見えていないお子さんが出現するんですよ。これが、私は、一番怖いと思っています。今の幼児を取り巻く食育の環境が、ものすごく変わってきました。

もう一つ、幼稚園に行きます。幼稚園の場合は、給食が2日間ぐらいで、お弁当が3日間とか、が結構多いんですね。で、ある園長がこう言いました。「先生、この10年間、昼ご飯の弁当の匂いが消えてきました」。10年前までは、ドアを開けると、ハンバーグの炒めた匂いがプーンと来たんですって。最近では、弁当の匂いが消えた。なぜ弁当の匂いが消えたんでしょうか。ちょっと、これも、お隣で相談していただけますか。

これも、おわかりですね。主婦專業のお母さん方も、冷凍食品を使う率が増えてきた。だから、手作りのものよりも、出来合いの物を炒めてくるから、匂いが消えてきたという表現を使っているんですね。

文科省を含めて、「早寝早起き朝ごはん」というのを、10年前から、そういう国民運動を起こしておりますけども、そういう生活リズムをつくらせていただきたい。特に、高校生レベルで、体力が弱いという人は「早寝早起き朝ごはん」の生活リズムができていないことがあります。

もう一つ、今の中学生、高校生はミーティングができない。物事を決めてきなさいと言うと、雑談はできるんだけど、決めきれないのです。千葉市には、JEF市原・千葉というプロサッカーのチームがあります。そのユース育成課長さんに

お聞きしたんです。ユースの選手を、ヨーロッパに連れて練習試合に行く。サッカーで、ハーフタイムがありますね。15分間のミーティングの仕方がヨーロッパと日本は、違うらしいです。ヨーロッパの連中は、15分間17~18名集まってディスカッションして、後半の戦い方を自分たちで決めるんです。決めて、5分前に監督に来てもらって、こういうフォーメーションでいきますけども、いいでしょうかとチェックを受けて戦うのがヨーロッパ。

日本の場合は、どうしようか、どうしようか、悩むんだけど、雑談で終わっている。すぐ、コーチ、監督が来て、「おい、みんな集まれ。いいか、後半のフォーメーションは、こうやって戦うんだ」、全部決めてくれるんです。そうすると、日本の子どもたちは戦える。この大きな違いを、ぜひ頭に入れていただきたい。

日本人は人から指示されると、非常にうまくできる。自分たちが集まって、物事を決めるという体験が少ないんです。どうしていいかわからないんですよ。こういうのを、私は、指示待ち人間の中・高校生と呼んでいます。家庭の中で、物事を決める場をたくさん用意していただきたい。

三つ目。三つ目の子どもの変わったことは、「肉食女子、草食男子」という言葉をよく聞きます。20代の男たちが、肉を食べなくて、草ばかり食べているから、元気がない。肉食女、草食男と言いますが、今日、小学生から、肉食女、草食男は始まっているんです、ということを申し上げます。

皆さん方の小学校で、運動会があります。ちょっと見ていただきたいのは、応援団長です。みんなの前で活躍する応援団長は、男か、女か。今、結構、6年生の女性が頑張っていて、応援団長をやっていますよ。

次、児童会の会長さんってあります。これも、3割から3割5分ぐらいは、女性が会長をやっている。今度は、中学校にいきます。生徒会会長は、女性がものすごく頑張っています。4割ぐらいで、中学校の合唱コンクールの指揮者、もう7割

か8割が女性ですよ。それから、英語のスピーチコンテストも、9割が女性ね。男は、みんな口パクですよ。人前で英語をしゃべれない。

政府が行う「少年の主張」ってあります。大体、8月、9月に県大会をやって、11月に全国大会があるんです。例えば、去年、千葉県の中学生の県代表が上がってきて、13名いました。女性が12名、男性は1名ですね。私は、国全体の審査員を3年間やった経験があります。47都道府県から代表が来ます。で、テープ審査をして、11名選ぶんですよ。大ざっぱに言いますと、全国の県代表で、男性が7名、8名程度、女性が40名ぐらいです。その中でテープ審査をして11名選ぶんだけど、下手をすると、みんな女性になる可能性が高い。そこで、委員の間で、下駄を履かせるかという話が出始めます。下駄をはかせていませんけども、そういう議論が出るのです。

かつての高校の弁論部なんて、男たちが、全部しゃべっていったんですよ。それが、今は、男の元気がない。戦後71年間、私は、女性はあまり変わっていないと思うんですよ。問題は、男が駄目になったんですよ。この駄目な男をつくった責任は、誰が取るべきか。ちょっと相談してください。

はい。これは、根が深いと思います。なかなかすぐには解決できない。一つだけヒントを申し上げます。男性の独りぼっちが始まったんです。いいですか、小学校高学年の男たちと、中学生、高校生を見てください。友達がいいますかと言うと、95%は、友達がいると言うんですよ。では、親友はいますかと言うと、親友がいないんです。だから、人間関係がふわふわふわふわしています。友人関係が安定していないんですよ。極端に言いますと、1カ月間は付き合うけども、半年以上、続かない。

その点、女の子たちは、小学校の高学年から、あの3人組。強固な人間関係ね。もう、来る者拒む。去る者追っていきますよ。それが、まず、PTAも母親たちの間まで来ているね。サイズは小さいけども、3人組の強固な人間関係、非常に安定しているんですよ。だから、集団の付き合いが

うまい。男は、ふわふわふわふわしていますから、立ち位置がわからないんですよ。50歳以上の男性たちは、小学校時代にいろんな集団活動をしましたから、立ち位置がわかったんです。言い出しっぺがいたり、仕切り屋がいたりですね、段取りを取るとか、そういうのを、小学生、中学生で学習しているから、高校生でも段取りができたんですよ。

ぜひ、高校教育で、男性たちにポジショニングの仕方を教えてほしいのです。おまえの立ち位置はここだよ。こういう仕事をすればいいんだよ。仕事をしたら、それを褒めてあげてほしい。そうすると、しゃきっとしてくるんですよ。

例えば、70歳を超えると、勲章を頂く条件ができますよね。69歳のおじいちゃんの手が震えた方が勲章を頂くと、しゃきっとするんですよ。男性は、本当単純です。シンプルですよ。褒めてくれば、しゃきっとする。おばあちゃんは、褒められても、褒めなくても、しゃきっとしているんですよ。

例えば、85歳で病気で入院するおじいちゃん、おばあちゃんを思い浮かべて下さい。入院の仕方が違うんです。おばあちゃんは6人部屋に入院する場合、リンゴとミカンを持っていきます。で、みんなに配って回るね。「よろしくね」とすぐ仲間をつくるのがうまいの。そこで、必ずいいおばあちゃんがいて「明石さん、明石さん。これがナースコールよ。あの足音は、院長先生よ」と教えてくれます。病院に入ったら、15分間で適応できるのがおばあちゃんですよ。

おじいちゃんは、すぐカーテンを閉めてイヤホンでテレビを見ているね。で、看護師さんがみえて、「おじいちゃん、ああですよ、こうですよ」と手間暇かかるんだから。はい。

今日申し上げたいのは、今の小学生、中学生、高校生の男たちは、まさに「おじいちゃん化」しているのです。黙って座っている。手間暇かかるんですよ。その点、女性の方は、自らが意欲的に学習しているんですよ。これからは、PTAで男教育も、ちょっと視野に入れてほしい。

例えば、皆さん昔の小学校時代を振り返ってくださいよ。転校生が来ますよね。女性の場合は、座って、黙っていても、すぐ教科書を見せてあげたの。男は、黙って座っているだけです。教師が「明石くん、田中君に教科書を見せてね」と頼まれると、教科書を見せたんですよ。男女で何か行動様式が違うんです。男性たちにチャンスを与えていただきたい。場数を踏む体験をさせてほしい。

次、四つ目。四つ目の子どもが変わったことは、子どもの大人化が始まったんです。簡単に言ったら、小学生、中学生、高校生が、大人と同じ生活スタイルを始めました。簡単に言うと、忙しい中・高校生が出現したんですよ。

小学校6年生、130名に聞きました。手帳を持っていますかと言うと、4割が手帳を持っているね。「遊ぼうぜ」「ちょっと待ってくれ」とかばんから手帳を出して、「月曜日、公文、水曜日、スイミング、土曜日、サッカー、野球」という。もう全部スケジュールが決まっている。そうすると、スケジュールが決まっていると、今に生きないんですよ。明日を考えて生きる人ね。明日を考える人生というのは、85歳を超えたおじいちゃん、おばあちゃんの生きがいです。彼らは今じゃないんです。明日なんです。

かつての小学生と大学生は、今に生きたんですよ。今に生きる方が減っています。すぐ明日を考える。精いっぱい頑張るといふ哲学が消えてしまった。

昔、小学校2年、3年生ごろ、放課後、外遊びで遊びほうけます。そして夕飯時に、箸を持ったまま眠った経験があるかないか。ちょっとお隣で相談してください。

今の小学生、中学生は、ほとんどそういう経験をしていない。多分、50歳以上の方は、相当遊びほうけたんですよ。この遊びほうける文化を、小学校時代に体験すると、中・高校生の部活動でも頑張ってくれるんです。

だから、ぜひ、地域で、小・中・高のPTAで連携して、夕飯時に、箸を持ったまま眠ろうぜと

いう国民運動を起こしてほしい。はい。本当にもう、食べっぷりが悪いんですから、遊びっぷりも、つき合いっぷりも悪いのです。

今日、もう結論を申し上げますと、自立する高校生は、食べっぷりがいい。遊びっぷりがいい。付き合いっぷりがいい。この三つのぷりができる人は、自立できているんですよ。この三つのぷりは、どこも教えてくれません。学校は、その三つのぷりを教えてくれなかった。みんな自分たちで獲得してきましたよね。それがやっぱり自立する高校生だと思っているんです。そういう意味で、放課後の世界を大事にしてほしいのです。

5番目に男子高校生をちょっと思い浮かべてください。生活するのに、1日に三つの言葉しか使わない。何と何と何という言葉を使うんでしょうか。ちょっと相談してください。親に対して使う言葉は、三つ。

もうおわかりですよ。一つは、飯(めし)。おなかがすいたから、飯。二つ目は、うるさい。三つ目は、お金。この三つの言葉を使う男子高校生は、将来、大器晩成ですよ。問題は、男子高校生で、放課後、お茶を飲みながらお母さんとぺちゃくちゃしゃべるのは危ない。自分の自我を持っていない。中学生、高校生のときに、ちょっと親と距離を置きたいんですよ。そういう成長スタイルがあったんだけど、今は、意外ともう、高校生、大学生の男たちが、放課後、母親と、お茶を飲みながらしゃべっているね。これは、非常に、今、困っているんです。自我というものができてきていない。

では、高校生の二つ目の問題。学校のサイトがあります、裏サイト。パソコンの裏サイトで、千葉県の県民生活課は、危ない高校の裏サイトを全部探しています。そこで問題です。学校裏サイトにはまっている高校生は、1年生、2年生、3年生、どの学年の男女か、誰が一番はまっているでしょうか。ちょっと相談してください。高校1年の男か女か、高校2年の男か女か、高校3年の男か女か。

これは、千葉県のデータによりますと、高校2

年生の女性が一番はまっているんですって。高校3年の女性になると、途端にやめちゃう。進学とか就職とかが近づくと、裏サイトには行かないという。高校2年生の女子高校生は、ちょっと注意していただくとよいのです。いろんな悩みがあると思うんです。それを聞いてあげるといいう仕組みをつくっていかないと、ますますはまる傾向が強いということが言われます。

高校生の三つ目はよく言われますが日本の中・高校生の自尊感情が低いことです。自分を肯定する感情がみんな低いんです。ただし、いいですか。日本人学校の中学生、高校生の自尊感情は高いというデータがあるんです。さあ、日本では駄目でも、ファミリーで海外に行くと、自尊感情は高まると言われるんです。その要因は何でしょうか。ちょっとこれもお隣で相談してくれますか。日本人学校に行くと、自尊感情が高まってくる。

その研究者によりますと、二つ原因がある。一つは、ファミリー全体で絆が深まってくる。駐在として海外に行っていますよね。そうすると、月から金まで会社から帰りが早いんですって。一家団欒の宴が多いんですって。それで、土、日は、車を使ってどっかへ旅をすとか、家族単位の活動がものすごく増えてきたという。それで、家族の絆が深まってくるというのが、一点あるそうなんです。

2点目は、必ず海外に行くと、おまえの宗教は何かとか、日本の自慢は何かとか、日本の歌舞伎とか、落語とか何だとか、おまえの出身の千葉は、何が自慢か、必ずみんなから言われるんですって。それで、自分のふるさととか、国の文化を、ものすごく学習して、それで説明すると、自信が出てくるという。

自尊感情を高めることは、これからのPTAと学校の一番のキーワードとなりますね。家族全体のまとまりをどうするか。自分の出身地のよさをどう発見していくのか。それらに答えることが、自尊感情を高かめることにつながる、というのです。

家庭教育の役割で、今日は二つ申し上げたい。

一つは、晩酌文化を復活させてほしい。今、市役所とか県庁の役人さんは、水曜日がノー残業デーね。ノー残業だけではダメです。おうちに帰らない。役所は出るけども、駅前の赤ちょうちんでとぐろを巻いているね。

晩酌文化というのは、おうちで、お父さん、お母さん、ファミリー全体が一家団欒の宴を週1回でいいからやっていただく、といいんですよ。そうすると、家族の絆が深まってくる。高P連でやってくださいよ。毎週水曜日、晩酌文化をやるうぜというアピールを。

晩酌文化をすると、なぜいいかと申しますと、おやじさんが飲んべえの場合は、なぜか、最初からご飯を食べない。お酒を飲んで、一番最後にお茶漬けを食べる。こういう日本のよき食文化を学習できるんですから。

私は、千葉大に37年間いました。ゼミ合宿をしますよね。夕飯に、明石は飲んべえだから、飲みたいけど、学生は飲ましてくれない。夕飯を6時頃食べて、9時からコンパをしましょう、となる。今の大学生は、おなかをつくってから、お酒を飲むんですよ。こういうのは、下の下なんです。日本酒は、すきっぱりで飲むのが、日本の文化。おなかをつくってから飲むのは、洋酒、スコッチとかウイスキーは30度を超えますから、すきっぱりで飲んだら、胃腸を壊すんです。おなかをつくってから、パーティーで飲むんですよ。

日本酒というのは、アルコール度が12%か13%ぐらいです。すきっぱりで飲んでも胃腸を壊さないのが日本酒なんです。日本酒を飲んで、最後にお茶漬けを食べる。お茶漬けというのは、毎晩食べても飽きがこないんですよ。こういう日本のよき文化を、ぜひ家庭で伝えてほしい。

二つ目は、なぜか飲んべえのおやじさんは、同じことを繰り返してしゃべる。聞かないと怒るね。「何で聞かないんだ」。晩酌に付き合おうと、親父の小言をうなずきながら聞き流す、ことを覚えます。これは大事ですよ。おやじの小言を聞きながら聞き流すことを覚えると、高校生が卒業して、大学へ行ったり、社会人になったときに、変

な上司と付き合っても、うまく付き合えるのです。これは、家庭教育のたまものです。学校教育では、そんなことはできませんから。家庭で晩酌文化というのを復活させてほしい。

三つ目は、「へその緒」の伝達式を行ってほしいのです。結婚するお嬢さんが嫁ぐとき、必ずお母さんが、たんすから出したへその緒を渡しますよね。よく東芝日曜劇場でそういうシーンがあるじゃないですか。お嬢さんが座って、「いろいろお世話になりました。晴れて明日嫁ぎます」と言ったときに、お母さんがちょっと待ってね、とおもむろに立ち上がって、たんすの桐箱に入ったへその緒を持ってきて、お嬢さんに渡します。これを、へその緒の伝達式と言うんですよ。何でお母さんは、お嬢さんにへその緒を伝達するのでしょうか。ちょっと相談してくれますか。

これ、もうおわかりですよ。親子の縁切り宣言なんです。中国とかスペインとかメキシコあたりではへその緒を捨てるらしいけども、日本は、まだまだ残していますよね。へその緒というのは、親子の契りのシンボルだったから、これを渡すことは、親子の縁を切る。もう帰ってくるなという宣言なんです。

かつての家庭教育は、そういう自信があった。十数年間育てたから、どこの家に嫁いでも大丈夫よ。家庭教育の全てを教えたから、もういいんだよ。あんたは帰ってこなくていいと言っているんですよ。もし、今日、おみえの女性の方で、へその緒をもらっていない方は、もう一度、実家に帰って、お母さん、しつけをお願いしますって、いって下さい。そういうよき伝統は、まさに家庭教育のよさを出していく。

次に、日本の地域で頑張っているところがあるんです。一つは、福井のことを申し上げたいと思います。福井県は、ものすごく教育熱心です。文部科学省の学力テストが10年、続いています。常に上位に来ています。それで、40数年前の学力テストでも、ベスト5に入っているんです。なぜ、福井がいいんでしょうか。福井の子どもたちの、小学校6年生と中学校3年生の学力は高いんです

よ。その背景は、学校だけでなく家庭と地域がしっかりしているんです。

例えば、家族で3世代住んでいる日本一は、福井県だと言われます。女性の方が働く率も、日本一位だという。で、貯蓄高が、日本で3番目に多い。東京と岐阜県と福井県は、貯蓄が高い。地場産業があり、女性が働く仕事がある。で、お金が入ってくる。

また塩分の摂取量が一番少ないのは、福井県と言われます。診療所、病院の数が10万単位で一番多いのは福井県と言われます。要するに、健康県ですよ。

社会教育で言いますと、県立の中央図書館があります。中央図書館の入館者率は、10万人単位で日本一位ですよ。言いたいのは、市民も本を読んでいるんですよ。1人当たり本を借りる率は、日本で2番目に高いんです。だから、社会教育も熱心ですよ。地域の子どもの子ども会があります。子ども会の加入率が9割ですよ。全国平均で、子ども会の加入率は4割を切ったんです。残念ながら、千葉県も2割を切っています。東京はもっと低いんですよ。それが、福井県は、子ども会の加入率が高いんです。

言いたいのは、家庭の力と地域の力の支えがあるから、学校が栄えているんですということをお願いしたいんです。あそこは、浄土真宗の発祥の地ね。親鸞さんのお弟子さんの蓮如が「講(こう)」をつくったんです。無尽とか、頼母子講とか、お互いが助け合う文化がある。いま一度、福井の文化を見直していただきたい。学校だけでは栄えませんよということをお願いしたいんです。

二つ目は、今日は、信州の方、長野県の方はいらっしゃるでしょうか。なぜか、長野の方は、県の歌を歌えるんですよ。「信濃の国」ね。皆さん、ほかの県の方は、県の歌を歌えますか。ちょっと相談してみてください。

「信濃の国」は、1番から6番まであるんだけど、1番と2番は、全員歌えるんです。小学校の音楽の時間もそうだし、地域子ども会で歌うんですよ。ご承知のように、長野は、長野と松本と

飯田は、仲が悪いんですよ。だけど、オール信州では、非常に仲がいいんです。自分たちの郷土を自慢する。東京の県人会では、全員が「信濃の国」を歌えるんですから。

千葉大にきた学生に、「どこ出身?」「長野県」「歌ってごらん」。歌えるんですよ。伴奏なくてアカペラで歌います。信州の歌を歌っているんですよ。みんな拍手喝采ですよ。千葉県も、県の歌があるんですよ。多分、千葉県の方は、歌えない、明石を含めて。

これから、学校教員、警察官、県の職員の地方公務員試験で1次試験に県の歌を入れてほしいね。地方公務員が歌わないと、誰が歌うんですか。そういう意味で、もう少し県を知るといふ、そういう意味では、長野県は、すごいと思います。

三つ目は、群馬県。群馬の方はいらっしゃいますか。群馬の方は、地名を全部知っているんですよ。これは、上毛かるたのおかげです。戦後すぐですよ。昭和21年か22年に上毛かるたを作るんですから。群馬の地名と偉人の入ったかるたです。「あ」は、浅間山とか、「つ」は鶴の格好をした群馬県とか、みんなかるたを通しながら、群馬のことを勉強していくという。千葉県は、これをヒントにして房総かるたを作っているんですよ。

お願いしたいのは、高校生になりますと、大体地域を離脱するんですけども、いま一度、住んでいる町を知って、好きになって、よくするという、ワン・ツー・スリーが欲しいですね。

今、一番困っているのは、「東大ロボ」って知っていますかね。ロボット、人工知能で東京大学に入りましょうという研究が進んでいるんですよ。これは、東京情報研究所の新井先生のグループが作っていて、今、人工知能でセンター試験の偏差値が67.8%ほどになっています。この偏差値ならば、千葉大の教育学部に入れるんですから。もうそこまで人工知能は来ているんですよ。

それで、人工知能に負けなくて10年後、残っている職業はほぼ6割程度といわれています。4割の職業は消えるというんです。皆さん、10年後、残っている職業は何でしょうか。ちょっと相談し

てくれますか。

要するに、人工知能ができないものです。私は、まず、高校の、中学校、小学校の教頭先生の仕事は、人工知能では駄目ね。あれだけいろんな苦情が来るんですよ、教頭の仕事はロボットでは解決できない。教頭先生を尊敬していただきたい。

次は、市役所の事務方の証明書の発行は人工知能でカバーできるけども、市役所の苦情係は無理でしょう。蜂が出たから来いとか、街灯が消えたから直せとか、の苦情係は人工知能はできないね。

あまり変化しない老人介護は、比較的人工知能ができるかもしれない。けども、幼児教育、保育所と幼稚園の教育は、ロボットはできませんよ。言いたいのは、幼児教育から、小学校、中学校の教育は、人工知能ではできない。ですから、PTAの皆さんのお力をお借りしたいんですよ。

これから多くのことは人工知能でできそうだけれども、できない非認知能力を大切にしてほしい。認知的なことは、ロボットがカバーできるんですよ。非認知能力は、学校社会ではできにくく、家庭と地域でできることが多い。

私は、長嶋と野村を対象にした研究を進めてきました。

野村さんは、認知能力はすごい。論理的で、記録を残し、明日を考えて、全体計画を作るのがうまい。長嶋さんは、明日を考えない。今に生きる。すぐにエースをつぎ込むね。記録よりも記憶を、非常にこだわる。論理よりも感性で勝負に行く。

野村さんは、学校教育のチャンピオンです。家庭とか、地域教育のチャンピオンは、長嶋さんだろうと思っているんですよ。

学校の先生方は、野村さんのようなタイプをつくってほしい。優秀な官僚さんと東大生のような認知能力に秀でた人を育ててほしい。けども、決断ができる政治家とか、PTA会長のリーダーというのは、認知能力だけでは駄目です。やっぱり非認知能力が必要なんですよ。

判断力と決断力を高校生にどう説明するか。ちょっと相談してください。決断力と判断力があるんだけど、どう違うんですかと言われました。

どう答えますか。私は、こう言います。判断力は、いろんな課題解決のために、情報を集めるんだよ。集めて、A案、B案、C案を作るのが判断力よ。これは、大体教頭さんの役割ね。で、校長さんは、そのA、B、Cの間に、Bを取るか、Aを取るかは、校長さんの決断ですよ。だから、教頭と校長の役割は違う。

もっと平たくいえば、恋愛は判断力だよ。いろんな条件を集めます。長男、次男とか、背が高い、低いとかね、好き嫌いとか。情報集めるだけで何ら決断できない。

結婚は、決断だよ。清水の舞台に立って、片目をつぶって、えいやと飛び降りるのが決断よ。今の若者は、決断できないんですから。

これからのPTAの活動は、判断力より決断力を持った高校生を家庭と地域、それから学校が協力して育ててほしい。

そろそろ時間が来ましたから、まとめますと、私は、二つの風、一つの色をお願いしたい。まず、一つの風は、家の風、家風と言います。各家庭の家風を起こしてほしい。家の紋は、家紋はこうだよとか、家の訓は、家訓は、こんな家訓があるよ。家自慢。二つ目は、学校の風。校風を、各高校の校風を盛り上げてほしい。建学の精神がある。うちの校歌と校旗には、こんな意味があるんですよということを、自慢してほしい。三つ目は、地域色。高校のある地域のカラーを出してほしい。これを、二つの風、一つの色。

言うならば、高校生を育てる場合に、トライアングルで家庭と高等学校と地域の三位一体で高校生を育成していただくと、元気な高校生が生まれると思います。どうもご清聴ありがとうございました。



記念公演

「私の選んだ女優の道」

女優 ^{いちほら}市原 ^{えつこ}悦子 氏



大会2日目、千葉県出身の女優、市原悦子さんの記念公演が、幕張メッセ・イベントホールで開催されました。

スポットライトに照らされ、会場後方より登場した市原さんは、参加者に向かってにこやかに手を振りながら、ゆっくりとした歩みでステージへ。正に女優として心憎い演出でした。

今回、「講演」ではなく「公演」としたことにも、市原悦子という役者としての意気込みを感じました。

少し息を切らしてステージに上がり、最初に発した言葉は「うふふ!」。この一言で、会場全体が一瞬にして笑顔に包まれました。その間の取り方がとても絶妙で「さすが!」と。

その後も、穏やかな口調で幼少期や女学生時代の様々な体験談、女優という職業に就いて得られたことなど、いろいろなエピソードを交えながらの語りは、観ている私たちを魅了していきました。

そして朗読を2話。1話目はグリム童話の「ねずの木の話」。「おかあさんがぼくをころして、おとうさんがぼくをたべた。いもうとがぼくのほねをひろって、ねずのきのしたにおいた…、キヴィッ

ト、キヴィット」、とても残酷なお話。先ほどまで和やかだった会場が、ピンと張りつめました。多くの参加者が、市原さんのお話の中に引き込まれていくのが空気を通して感じ取れました。

次いで、「日本昔ばなし」の裏話など楽しいお話の後、2話目の朗読。2話目は「火垂るの墓」の著者、野坂昭如さんの「凧になったお母さん」。戦争中、戦火に巻き込まれ、我が子を助けるために自らを盾にして懸命に守り、最後は空に舞ったお母さんの切なく哀しいお話でした。

そして最後に、ご自身の戦時中の体験から「世界中から飢えや戦争がなくなることを祈っています」とのメッセージで公演を終えられました。

市原さんは、なぜこの公演で残酷なグリム童話や戦争童話を朗読したのだらうかと思いました。毎日のように起こる、子供たちを巻き込んだ悲しい事件や事故。二つの朗読は、そんな現代社会に対しての市原さんからの警鐘であり、「私たち大人が、今後どう行動し、何をしなければならないのか」、そんな宿題を出されたような気がした公演でした。

(文：澤畑智佳子)